

HP から転載

JJ1SXA/池

以下は、全て 240 の HP に載せてある記事ですが、見落としている方もあることでしょうし、当誌の寄稿が少ないので、あえて、ここに転載します。

面白くないが hi…見落とした方は、ご一読を！（相変わらず CW 関係の話題です）
なぜ1アマ？

移動局は、HF も 50MHz も、また 3 アマも、2 アマ・1 アマでも出力は 50W が上限、500W や 1KW の固定局を開局するつもりは無い、だから1アマなど必要ないというのが、大方の 3 アマ局の言い分です。

ここで一寸待たせて、折角無線をやっているのだから、JA で許可される全てのバンドにオンエアできる方が FB かと思いますし、200W までは、検査無しで免許されます、固定からモバイル局を追いかけるのもハイパワーならサービスエリアが違ってきます。

かつては、1 アマ取得には、和文 CW の送受信ができなければいけなかったため、諦めていた局が多かったと聞きますが、欧文 60 字/分の 3 分間受信、更に欧文 25 字/分の 2 分間受信に改正され、今回(平成 23 年 10 月 1 日以降)の改正で、実技試験は全廃されました、また法規・工学の試験も多肢選択式となり、受験し易くなっています。(最年少合格者は小学生です！！)

ここは矢張り挑戦でしょう。

こんな意見が！！

「アマチュア無線の試験制度からモールス送受信の廃止・簡略化(CW⇒世界無形遺産?)」

…(前略)…もちろん、試験科目からなくなっただけで、モールス通信が禁止されたわけではありませんから、やりたければ自分で覚えれば良いだけという理屈ではありますが、覚える必要は無いというのは、やがて埋もれる運命にあり“世界無形遺産”として残る以外に道はありません…(中略)…

また、…(中略)…かつて我が国では、第1級アマチュア無線技士に対して和文送受信の能力が必要とされましたが、現在ではその必要がなく、結果として各バンドを聞いても和文通信を聞く頻度は極めて少なくなり、この延長上モールス受信能力が不用ということになれば、やがて最後の砦もくずれて行くのは必然でしょう……(後略)…
(CQ 誌・2007 年 3 月号 JK1OPL 小野 OM の記事から抜粋掲載)

私も同感、良くぞ言ってくれた！！(de JJ1SXA)

こんな話も！！

「昔話 業務の世界の電信通信」

21世紀に入り、民間の業務通信からモールスが廃止されました(ミリタリー用途は残っています)。

業務モールス通信のスタートは陸上で有線電報通信でした。

その後、SOS タイタニックがきっかけとなり、船舶でも業務無線通信にモールスが使われました。

そして、国際通信の黎明期はモールス通信が花形だったのです、特に、船舶局の通信士は熟練の凄腕の方々でした。

「時化(しけ)で大揺れの船室で、送信機のファイナル真空管が赤熱するほど、次々と電報を縦振り電鍵で送信し、船室で話をしながらでも、次々と入る電報を1文字落とさずタイプ受信していく」こんな、アマチュアには神業と思えるような技を日常の生業としていたのです。

民間のプロのCW通信士が生まれることは少なくなりました。ぜひ、アマチュア無線がこの技を継承してCWの発展に寄与していきたいものです。

(JARL ニュース 2011 年秋号のコラムを転載)

JISXA の独白…

1 アマを目指して和文に一生懸命取り組んだ昔の1 アマに何も特典が無いのは何故？

その昔、必死に和文を覚え、学科の方も既出問題丸暗記で、かろうじて1 アマに合格しただけですが…

然し、和文だけで無く、学科は全て筆記式、現在の多肢選択式(択一式、補完式、正誤式)よりかなり大変だった？

私が合格した当時(1978年)の1 アマ所持者は、数千人しかいなかった…(今は、小学生の1 アマも現れ、その数はうなぎ上り)

最近の合格者に、同じ1 アマですねと言われると、思わず愚痴が出そう…(同感の人も多いことでしょう!!)

PC→エレキー→縦振り・バグキーの順が現在のお薦め、縦振りの技術は貴重!!
Let's A1 コンテスト・エスカルゴ 6mCW コンテスト・全日本 CW 王座決定戦等は、縦振り電鍵の花盛り。

以下は、第76号(2010年3月発行)番外編「時代の流れ」の文末の文章です!!
……HPには、種々の情報を載せていますが、余り見てもらっていないような気がします、また、TWO-FORTY誌の記事も殆ど読まないと言う局もあるようで…まあ一部でしょうが。(どうすりゃいいのだ?…SXA 独白)……

そして、現在の心境、「春は名のみ風の寒さや…いかにせよとのこの頃か」

(新作唱歌にある「早春賦」の一番の冒頭と三番の終わりの歌詞)